

第7回小日向台町小学校等改築基本構想検討委員会

会議録

日時	令和5年2月7日(火) 18:30~19:00	場所	文京区立小日向台町小学校 体育館
委員 事務局	<p>&lt;委員&gt; (出席)</p> <p>委員長 八木 茂 (教育推進部長)</p> <p>副委員長 木村 健 (学務課長)</p> <p>委員 長谷川 博康 (小日向台町小学校PTA (父母と先生の会))</p> <p>委員 那須 晴吾 (小日向台町小学校地域学校協働本部)</p> <p>委員 福田 恵 (小日向台町幼稚園PTA (こひなた会))</p> <p>委員 馬場 麻衣子 (小日向台町育成室父母の会)</p> <p>委員 春名 正昭 (小日向台町小学校同窓会)</p> <p>委員 酒井 美津子 (小日向台町町会)</p> <p>委員 野村 忠昭 (古川松ヶ枝町会)</p> <p>委員 伊藤 博之 (大塚青少年健全育成会)</p> <p>委員 田中 純一 (小日向台町小学校校長)</p> <p>委員 吉羽 優子 (小日向台町幼稚園園長)</p> <p>委員 宮原 直務 (教育推進部副参事)</p> <p>委員 石川 浩司 (児童青少年課長)</p> <p>委員 横山 尚人 (企画課長)</p> <p>委員 大畑 幸代 (整備技術課長)</p> <p>学識経験者 土田 寛 (東京電機大学教授 (工学博士))</p> <p>&lt;委員&gt; (欠席)</p> <p>委員 赤津 一也 (教育指導課長)</p> <p>&lt;事務局&gt;</p> <p>熊野巧 (教育推進部学務課)</p> <p>谷津星駿 (教育推進部学務課)</p> <p>&lt;コンサルタント&gt;</p> <p>株式会社マヌ都市建築研究所: 板谷龍二郎、道家祥平、小松妙子、今井文子</p>		
次第	<p>1 開会</p> <p>2 報告書について</p> <p>【資料第1号】文京区立小日向台町小学校等改築基本構想検討委員会報告書(案)</p> <p>(事務局より概要説明後、各委員より意見聴取)</p> <p>3 閉会</p>		
議事録			
<p><b>1 開会</b></p> <p>○事務局: 定刻となりましたので、只今より第7回文京区立小日向台町小学校等改築基本構想検討委員会を始めさせていただきます。</p> <p>本日は、ご多忙の所、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。事務局を務めます教育委員</p>			

会学務課施設担当の熊野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、本日の委員の出欠状況について、ご報告申し上げます。赤津委員から欠席の連絡を受けております。

次に、本日の配付資料の確認をさせていただきます。**資料第1号**として本検討委員会報告書の（案）を配付しております。過不足等はありませんでしょうか。

## 2 報告書について

○事務局：続きまして、次第の2「報告書について」に移ります。これより司会進行は八木委員長よりお願いいたします。

○教育推進部長 八木委員長：こんばんは。委員長の八木でございます。

前回、第6回検討委員会において、「報告書（素案）」の概要説明を行い、委員の皆様よりご意見をいただきました。配付させていただいた「報告書（案）」は、前回いただいたご意見を反映した資料になります。本日は、素案から追記・修正した箇所について、事務局より説明を行い、その後、改めてご意見をいただき、最終的な報告書の内容を固めたいと考えております。

ここで改めて、本検討委員会においてこれまで議論をしてきた内容を振り返りたいと思います。

令和3年11月30日開催の第1回検討委員会では、小日向台町小学校を改築することについて、全会一致で決定いたしました。

令和4年5月13日開催の第2回検討委員会では、小日向台町幼稚園及び小日向台町児童館・育成室と一体的改築を行うことについて全会一致で決定いたしました。また、小学校の必要諸室について、皆様からご意見をいただきました。

第3回は書面開催にて、幼稚園の認定こども園化、幼稚園及び児童館・育成室の必要諸室についての考え方、椎の木の扱いについて、皆様から様々なご意見をいただきました。

9月26日開催の第4回検討委員会では、第3回の内容について改めて議論していただきました。特に椎の木の扱いについては、深い議論を行った結果、改築工事の際に抜根すること、その際に「3代目」椎の木のお別れ会等のイベントを実施すること。「3代目」椎の木を材木として活用し、できる限り何らかの形で新校舎に残すとともに、材木を再利用し、児童及び学校関係者に記念品を配付すること、「4代目」椎の木を植樹することが決まりました。併せて、改築校舎のおおまかな配置パターンの共有を行いました。

10月16日と10月30日開催の第5回検討委員会では、直近の改築校である誠之小学校と第六中学校の学校視察を行いました。

11月28日開催の第6回検討委員会では、「報告書（素案）」をお示しし、委員の方々から、プールの配置や同窓会・PTA活動の拠点とする場の整備というご意見があり、この会議で検討した結果、「報告書（案）」に文言修正や追記することとなりました。

以上が、これまでの経過でございます。

それでは、事務局から「報告書（案）」の概要説明をお願いします。

○事務局：それでは、ご説明いたします。

まずは、改めて「報告書（案）」の色分けについて説明いたします。表紙にもあるとおり、本検討委員会で議論してきた内容を赤字、文部科学省が出している学校（幼稚園）施設整備指針等から引用した内容を青字、明化小学校及び柳町小学校の改築基本構想検討委員会報告書より引用した内容を黒字でそれぞれ色分けして表記しております。なお、これらの表記につきましては、最終版では黒字に戻しますのでご了承ください。

また、前回、委員の皆様から頂いたご意見は、太字にして枠をつけております。

さらに、「VI 特に配慮すべき事項」の内容については、事務局の方で加筆を行いました。こちらは、太字にして下線を引いてあります。

それでは、追記・修正した箇所について確認していただきます。

頁をめくっていただいて、5頁をご覧ください。

下から3行目、青字に二重線で削除されている箇所があります。こちらは、野村委員よりいただいた「プールの配置」に関するご意見になります。素案では、プールの配置について、「地下とすることも視野に入れた設計も有効である。」と記載がある一方で、「8頁（4）体育館及びプールについて」の、②プールについてでは、「採光・日照等に配慮し、原則、屋上に設置し、屋根は可動式とすることが望ましい。」と記載されており、内容が矛盾しておりました。こちらについては、他校の事例を鑑み、原則、屋上に設置することとさせていただきます。申し訳ありませんでした。

続きまして、8頁をご覧ください。こちらは小日向台町小学校に関する部分になります。上から3行目、「③PTA活動の拠点となる場等の整備に、「同窓会活動」という文言を追記いたしました。こちらは春名委員から頂いたご意見になります。

続きまして、10頁をご覧ください。こちらは小日向台町幼稚園に関する部分になります。上から8行目、「⑥PTA活動の拠点となる場等を整備することが重要である。」という文言を追記いたしました。こちらは福田委員から頂いたご意見になります。

最後に11頁をご覧ください。椎の木の扱いについて、上から9行目、「材木を再利用し、児童及び学校関係者に記念品として配付すること。」、下から2行目、4代目椎の木の植樹位置について、「樹木が成長することを考慮した上で」植樹位置を含めた設計を行うこと。以上2点を事務局の方で追記いたしました。検討した内容が漏れており、申し訳ありませんでした。

最後に、表紙に戻っていただきまして、完成版の表紙につきましては、表題の下、黒囲みで表示している部分は削除となりますので、よろしく願いいたします。

事務局からの説明は以上になります。

○教育推進部長 八木委員長：ご説明した事項について、追記・修正箇所についてご質問等ございますでしょうか。

<質疑応答><議論>

○小日向台町町会 酒井委員：14ページの想定スケジュールについてですが、設計が2年、工事が8年を想定しているそうですが、建築業界も色々技術が進み、材料とか工法なども進歩して、例えば工期が大幅に短縮できるようなアイデアとか案というものが出てきたときに、それが優先的に採用されると

どうか総合的に判断するのでしょうかけれども、そういう場合にいかがなのか、という事が一つ。それに絡めて、13 ページの体育館について既存の体育館は新しい体育館が使用できるようになるまで使用するというので、体育館は壊さないで最後まで残すとありますが、それがプロポーザルで案を募集するときに、これだと工法とか工事順序とかに制約が加わるかなと思うのですがその辺はいかがなものなのでしょうか。

**○教育推進部長 八木委員長：**想定スケジュールは予定では約8年とのことですので、その間に工法の進歩等により、工事が早く終わるということになれば、その分早く子どもたちに新しい学校を使ってもらえますから、その辺は考えていきたいと思えます。ただ、場合によっては逆の事もありえます。諸事情で遅くなってしまう事もありえますから、これは実際やってみないと分からないものです。約8年というのは、今までの経験でいくとこの程度の工期になるのではないかと、という事を記載いたしました。私どもも、なるべく早く工事を終わらせたいという気持ちは持っております。

体育館の件については、子どもたちの雨の降った時などの活動場所という面以外にも、災害時の避難所として非常に重要な役割を担うものですから、他の学校でも体育館はずっと残したまま、工程を工夫しながら改築工事を進めております。今回の小日向台町小学校においても同様の手法を採用したいという考えでこのような表現となっております。以上です。

**○小日向台町町会 酒井委員：**体育館が建つ位置を変えられないという事は区の方針として決まっている事なののでしょうか。総合的にスムーズに行く工期があっても体育館は最後まで使うになっているのは区の決定方針というか基本方針なののでしょうか。

**○教育推進部長 八木委員長：**余程のことがなければ、先ほど私が申し上げたような形でぎりぎりまで体育館を残して、新しい体育館とバトンタッチをするというやり方が文京区の今までのやり方です。ただし、どうしてもそれができない理由が出てくれば、別の対応を取らなければなりません。報告書というのはこうなるといいな、という事を書いたものであり、なるべくは皆さんと作った報告書に基づいて設計をして、改築工事に入りたいと考えております。

**○小日向台町町会 酒井委員：**ありがとうございます。

**○教育推進部長 八木委員長：**他にはいかがでしょうか。新しい修正箇所については先ほど申し上げましたが、酒井委員が今おっしゃったのはそれとはまた別の観点からの報告書の全体についてのご意見でしたが、報告書案の全体から見たご意見があればおっしゃっていただけたらと思います。いかがでしょうか。

**○古川松ヶ枝町町会 野村委員：**この計画案ですと小学校のPTAとか学歴室、それと幼稚園と別個に独立して設計するという考えでよろしいでしょうか。

**○教育推進部学務課長 木村副委員長：**今、野村委員のおっしゃっているのは今のように別々に造るの

かという意味でよろしいですね。今回の一体的改築というのは、建物は一つで、動線において分けをしていく形になりますので、別々の建物ではないということで考えています。一つの建物で幼稚園の部分、児童館施設の部分、小学校の部分という形で敷地を有効活用して一体的に建物を建てていくという形で考えているところです。

○古川松ヶ枝町会 野村委員：それは理解しているのですが、PTA 関係の主旨でいうと、それぞれ独立したものかということです。二つの同じような PTA の部屋が重複するというよりも、例えば 1.5 倍ぐらいの広さにして共同に利用すると有効利用になるのでないかな、ということでございます。

○教育推進部長 八木委員長：例えば、小学校と幼稚園の境の所に PTA の部屋を造るというのも方法だと思います。確かにおっしゃるとおり、それぞれ部屋をつくることよりも全体的にはコストも安く手間も少なくなります。あとは、使い勝手や共有していく上での課題もあるかと思います。そこについては今後設計する中で考えていくことになります。

他にはいかがでしょうか。ご意見が無い場合には、誤字などはこちらで修正させていただきますが、基本的には「報告書（案）」をそのまま「報告書」という形にさせていただきたいと思います。

貴重なご意見を頂きありがとうございました。

### 3 閉会

○教育推進部長 八木委員長：それでは、全体を通して、土田先生から何かございますか。

○土田コーディネーター：この委員会は、今日で取りまとめということで認識しております。先ほど委員長からお話ございましたが、7回にわたって皆さんと大変活発な議論ができて、本音の部分もそれぞれ意見交換されてとてもいい感じになったのではないかなと思っております。また話にもあったように、基本構想という検討をもって基本計画案というものが出来上がり、スケジュールにも触れましたが、これはあくまで現時点段階での想定であります。今後設計が2年、工事が8年とあります。非常に長い時間であり、町会ははじめ皆様方、おそらく今の小学校の児童らも中学生、高校生になって…というくらいの時間が過ぎます。今回の検討事項は学校施設でしたが、地域づくりやまちづくりということを考えると、実際10年という時間は長いようで短いといえますか、色々な時間がそれぞれ期間をもって変化の中で不測の事態も多々出てくるかもしれませんし、様々なことに対応していくことになります。

そのような中で行政も教育、福祉をはじめとするいろいろ関係機関はもちろんのこととして、何よりも地域にお住まいの方たちとどのような協力関係を築きながら進めていけるかということが重要であり、ポイントになると考えています。その結果として時間の経過というのを短く感じたりとか、いろんな創意工夫の中で8年という工事期間がもしかすると短くなるかもしれません。これは期待ではありますがおそらく地域力であるとか総合力といったことがポイントになってくるのかなと思っています。

最後になりますが、2月に入って学部の4年生が卒業論文とか卒業設計、大学院の修士論文なども終わりつつあり、大学もひと区切りがつくようなところです。実は、今年修了する大学院生は4年の時にコロナ禍がはじまり、建築学科が特殊かもしれませんが、ほぼ毎日研究室に誰かしら寝泊りしている究極の夜型生活という醍醐味が全く経験できない3年間になってしまいました。大学・大学院の6年間の

うちの後半3年間を満足に大学にも行けないというようなところがあつて、ちょっとかわいそうでした。といいますのも建築学はとても古典的で精神的でもあるようなとても原始的な工学分野で、設計から工事まで多くの関係者が絡む中で建築物が出来上がります。ですからなおさらコミュニケーション能力みたいなものがすごく大事なのですが、先輩寝食を共にする後輩の関係作りという研究室生活が不足してしまい心配しています。

加えて学生たちの印象の中で、昨今コミュニケーション能力が落ちている気がしていたところにこのコロナ禍でした。大学生のそれとは直接には関係しませんが、一番多感な小学生らことを思うと人間関係作りにとってコロナ禍のもたらした間接的な影響は大きかった可能性を排除できないと考えています。慣れ親しむ学校や地域と直接にコミュニケーションをとる、直接にコンタクトを取っていけるような雰囲気や状況を地域力の中で作っていくことが望まれると考えます。イギリス型のコミュニティスクールではないですけど、せつかく作るところから皆が関わるのが可能な状況にあるので、こうやりたいとか、ああやりたいという建設的な意見と議論を尽くし。その上で皆で共感し譲り合いながら自分たちの学校や地域を作っていくということ、この貴重な経験を当事者の子どもたちに留まらず、先生方も色々な教育の話をし、地域にとって何ができるんだという立ち位置で進めていけるととってもいいかな、と思っています。

あまり関係ないのですが、うちの東京電機大学のカリキュラムは半分ぐらいが情報系になっていてサイバーセキュリティ含むITエンジニアを育てているのですが、今の総理大臣が、学校にはICT教育を、ということで、子供一人に一台の端末を小学校から与えてそれが全員で使えるような教室にしないみたいな指針を出し、それに予算がついているのですね。中学・高校の生徒たちを中心にデジタル化されたマイフォトブックの中に実は生の画像がない。常にアプリで改変された顔しか思い出として残ってないとか、ICT といつか SNS の倫理観が犯罪に使われることも含めて、全く法整備が出来てない中でこれ以上 IT 教育を子どもの頃から推進してしまう。最悪なのはネットで見たということは覚えているのですが、その情報が誰のどういう研究に基づいて、どういう席にいて発言した内容かということ今この大学生はほとんど覚えていない。要は通り過ぎて行った情報の中で輪郭が形成されてしまうことが初等教育における ICT 教育も、恐らくこれから危惧されていく世の中になると思うので、学校の現場力、実空間力みたいなものを地域と共に作っていくことが多分とってもいいチャンスではないんじゃないかと思います。すみません、SNS、IT の悪口を言いましたけど、子どもたちがこれからどうなっていくか、僕の場合は大学生を見てすごく不安になります。もう僕らが経験したようなバブルの時代なんて二度と来ないし、大企業がつぶれる世界の中で、彼らがどうサバイブしていくかということを大学

生から始めてもう遅いと思えて、こういう場面で新しい学校を鍛えて地域と皆が共創する、力を合わせるということがとてもチャンスになると考えています。

**○教育推進部長 八木委員長：**土田先生、貴重なご意見ありがとうございました。私どもも、学校という箱を作るだけでなく、子どもの教育や地域の皆さんとの関わりを大切にしながら学校運営をしてまいりたいと考えておりますので、またお力添えを頂けたらと思います。

委員の皆様、ご多忙の中、全7回にわたり検討委員会にご出席いただきありがとうございました。様々なご意見をいただき、議論することで、より良い学校整備の基礎となる「報告書」を作り上げることが

できることとなりました。皆様のご理解・ご協力に心より感謝を申し上げます。

以上を持ちまして、小日向台町小学校等改築基本構想検討委員会を閉会させていただきます。

以上